



平成 28 年度

中東 PSC 地域組織への専門家派遣

事業報告書



公益財団法人 東京エムオウユウ事務局

目次

I	事業の目的	-----	3
II	平成 28 年度の活動概要	-----	4
III	リヤド MOU との今後の協力	-----	7
IV	おわりに	-----	9

添付資料

	オマーンでの研修報告書	-----	10
--	-------------	-------	----

I 事業の目的

公益財団法人東京エムオウユウ事務局は、「アジア太平洋地域における寄港国による船舶検査（Port State Control : PSC）の地域協力に関する覚書（MOU）」が1993年12月に締結されたのを契機に設立されました。この覚書は東京で締結されたため、通称、「東京 MOU」と呼ばれています。東京 MOU の目的は、加盟した海事当局が協力・協調して PSC を実施することによりアジア太平洋地域からサブスタンダード（基準不適合）船を撲滅し、海上安全や海洋環境の保全を確保することです。現在 20 カ国・地域が加盟しています。

この目的を達成するには、PSC を執行する各国職員（PSC 検査官）の養成や能力向上が不可欠であり、本財団は、1994年の設立以来、日本財団からの多大なご支援をいただきながら、域内各国で PSC 検査官への研修やセミナーを実施してきました。この効果もあり、東京 MOU 域内の検査件数は、先行した欧州の PSC 地域組織（通称パリ MOU、1982年設立）を上回るまでになりました。東京 MOU 域内の検査件数は伸びましたが、中国などの経済発展により入域隻数は近年大幅に増えてきており、検査すべき船舶を全ては検査できない状況となっています。アジア太平洋地域の海上安全、海洋環境の保全を確保していくためには、東京 MOU 域内の PSC 体制を一層強化していく必要がありますが、各国とも職員の大幅な増員は難しい状況です。また、研修等によって検査技術の向上を図り効率を上げる努力も続けていますが、限界もあります。

このため、隣接する地域組織と連携を図り、東京 MOU 地域と隣接地域を往来する船舶に対する検査を確実に実施することが適切と考えました。この連携を実現するため、日本財団のご支援を得て、検査技術・件数も十分とは言えない隣接する PSC 地域組織に東京 MOU 域内の専門家を派遣し、能力アップを図る事業を2009年度から開始しました。まずはインド洋地域を皮切りに、2009年度から2011年度まで同地域に3カ年計画で専門家を派遣、その後2012年度から2014年度までは、南米地域へ専門家を派遣しました。

インド洋 MOU は本事業により研修の重要性を認識し、2013年からはオーストラリア等の資金援助により独自の研修を実施するようになりました。この研修により、インド洋 MOU の能力アップが継続的に図れるようになりました。東京 MOU はインド洋 MOU の要請により、研修ノウハウを提供するとともに、専門家を派遣しています。

2015年度からは2カ年計画で、中東地域へ専門家を派遣、現地で研修を実施しています。本報告書は、中東地域への第二回専門家派遣事業であり、2009年度に始まった、日本財団支援による隣接 PSC 地域組織への専門家派遣事業の最後の事業となるオマーンにおける事業についてまとめたものです。

II 平成 28 年度の活動概要

1. 事前準備

- 1) 昨年度の中東での PSC 研修は、バーレーンの強い要請を中東 PSC 地域組織（リヤド MOU）事務局が受け入れたため、バーレーンで開催しました。バーレーンの強い要請をリヤド MOU 事務局が受け入れた際、同事務局は今年度の研修はリヤド MOU 事務局があるオマーンで開催したいと表明しました。これを受け、当財団が関係機関と調整した結果、今年度の研修はオマーンで開催することになりました。
- 2) 2016年7月に開催された国際海事機関（IMO）実施小委員会の際にリヤド MOU 事務局と協議し、2017年3月頃にオマーンで研修を開催することとしました。その後のメールによる同事務局等との協議により、最終的な開催期日は2017年2月19日～3月2日になりました。
- 3) 2016年10月にオーストラリアのホバートにて開催された東京 MOU 第27回 PSC 委員会の際、オマーンでの研修への専門家派遣について各国に打診したところ、オーストラリア、チリ、中国、日本、ニュージーランドなどが前向きな姿勢を示しました。その後、他の専門家派遣プロジェクト等を考慮し、チリ、中国、日本及びニュージーランドから各1名ずつ合計4名の専門家を派遣することにしました。また、現地で研修開催国及び専門家との調整を行うため、当財団職員1名を同国に派遣することにしました。

2. オマーン・マスカット（座学）及びソハール（実船訓練）での研修

- 1) 研修は、2017年2月19日～3月2日に開催され、同国の首都マスカットで座学、有数の港湾都市ソハールで実船訓練を行いました。過去のインド洋地域と南米地域での研修に引き続き、IMO が計画段階からこの研修の意義を高く評価し、中東 PSC 地域以外からの参加者6名の旅費をIMO の技術協力基金から拠出しIMO との共催で実施することになりました。IMO は、便宜置籍国の増加などにより IMO が採択した条約を旗国が十分に遵守していないことを憂慮し、PSC（寄港国検査）の強化に期待しています。
- 2) 研修参加者は合計12名で、リヤド MOU 域内からは、オマーンから6名が参加しました。当初、バーレーン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦等の PSC 検査官参加する予定でしたが、研修日程決定後に研修期間中に IMO の加盟国監査が行われることとなった等の事情により、それぞれ直前に参加を断念せざるを得ませんでした（詳細については11-12 ページ参照）。域外からは、コンゴ（西中央アフリカ PSC 地域協力組織（アブジャ MOU））1名、トルコ（黒海 MOU）1名、スーダン（インド洋 MOU）1名、チュニジア（地中海 MOU）1名、コロンビア（中南米 MOU）1名（以上 IMO 負担）、及びケニア1名（インド洋 MOU 負担）が参加しました。セントビンセント&グレナディン（カリブ海 MOU）からも IMO 招聘により1名の参加が予定されていましたが、個人的事情で参加を取りやめました。

- 3) 研修準備に当たっては、事前調査の結果やリヤド MOU 事務局及びオマーン海事当局の希望を考慮し、研修生の経験・レベルに応じ、柔軟な講義とするため、ケーススタディ等の充実を図りました。オマーンでは、2015年12月にインド洋 MOU 加盟国（オマーンはインド洋 MOU とリヤド MOU の双方に加盟）としてインド洋 MOU による PSC 研修が開催され、当該研修に東京 MOU から専門家を派遣した経緯もあり、リヤド MOU 事務局及びオマーン海事当局からは、研修をより実践的な内容にして欲しい旨の要請がありました。
- 4) 今回の研修参加者には、PSC を執行したことのない参加者やごく初心者も多くいました。このため、実際の欠陥状況の写真等を多用し、分かりやすい講義としました。また、実船訓練前に模擬 PSC (Virtual PSC) を取り入れ、参加者が机上で PSC 執行を体験できるようにしたり、講師が船長、機関長役、研修生が PSC 官役となって、船側とのやりとりのシミュレーションを実施したりと、経験や知識が少ない者も討議に参加する環境を作りました。このような研修ノウハウは、今後リヤド MOU が自ら実施する PSC 研修に大いに役立つものと期待しています。
- 5) 韓国船級協会のご厚意により、海上人命安全条約 (SOLAS 条約)、海洋汚染防止条約 (MARPOL 条約) 等の海事関係条約や関係コードの条文が収められ容易に検索できる USB ツール (KR CON) を参加者全員に配布し、今後の PSC 活動にも有効活用できると好評を博しました。
- 6) 研修は滞りなく終了し、多くの研修員から、自国・域内には PSC に特化した研修がなかったのが、貴重な機会であったとの声がありました。
- 7) オマーン研修の詳細については、添付として取りまとめました。本事業にご支援をいただいた日本財団並びに専門家を派遣していただいたチリ、中国、日本及びニュージーランドの海事当局に感謝いたします。



III リヤド MOU との今後の協力

1. 発展途上の PSC 地域組織

- 1) リヤド MOU は、世界の PSC 地域組織の中では一番若い存在です。サウジアラビアのリヤドにて、中東地域を包括する PSC に関する覚書に署名がなされたのが 2004 年ですが、事務局と域内データベース設置場所がオマーンに正式に決定したのは 3 年後の 2007 年です。その後、オマーン運輸通信省（Ministry of Transport and Communications of Oman）協力の下、事務局とデータベースの運営が本格的に始まったのが 2012 年です。
- 2) しかし、PSC 職員の能力やデータベースの機能には問題も多く、2014 年には東京 MOU のオブザーバー資格を取得するなど、先進 PSC 地域組織から学び能力の向上を図ろうとしています。このような状況から、当財団は 2015 年からリヤド MOU への専門家派遣事業を実施しました。

2. PSC 職員の能力向上

- 1) リヤド MOU では、PSC 職員の育成を最大目標に掲げています。2015 年に豪州資金によるインド洋 MOU の PSC 研修（東京 MOU が研修の企画、専門家の派遣等全面的に支援）がオマーンにて開催されましたが、その研修にリヤド MOU 加盟国であるサウジアラビアとアラブ首長国連邦の PSC 検査官を参加させました。
 - 2) リヤド MOU 事務局長は今回の研修を高く評価しており、今後とも東京 MOU の支援を得たいとしています。東京 MOU としては、研修カリキュラムの立案、講義資料の提供、専門家の派遣等により、リヤド MOU 独自の研修実施に協力したいと考えています。
- #### 3. 域内データベース

- 1) 各 PSC 地域組織は、独自のデータベースを構築し、色々な検査データを把握しています。しかし、リヤド MOU では、域内データベースが現在も整備中で、完全には機能していません。例えば、最近になって検査データが重複して入力されていることが発覚し、重複分をデータベースから削除できるようなシステムに改良し、現在、過去のデータに遡って、重複分を削除しているところです。また、システム上の問題で、現在追加検査（初期検査で見つかった欠陥の是正を確認する検査）を、初期検査を実施した国しか実施できない（入力できない）仕組みになっているため、未処理の欠陥が大量に発生しているようです。この問題も、解決に向けて全力で取り組んでいるようです。
- 2) 検査件数を例にとると、2016 年は 2015 年と比較してどの加盟国も減少していますが、上記の理由により実際の検査件数が減少したかは今のところ不明です。現在の状況では、PSC の活動状況に関する正しい評価ができません。

- 3) このため、2017年1月に開催されたリヤド MOU の PSC 委員会では、データベースの整備が最優先課題として議論されました。東京 MOU も利用しているロイズリストグループとのデータ交換等を通じ、またオマーンの運輸通信省 (Ministry of Transport and Communications) と協力して、データベース整備に全力を挙げて取り組んでいます。今後、東京 MOU としてはこの分野でもできる限りの協力をしたいと考えています。

IV おわりに

1. 日本財団の支援を受け、2009～2011年にインド洋地域、2012～2014年に南米地域、2015～2016年に中東地域へ東京 MOU から専門家を派遣し研修を行ってきました。IMO がこの事業を高く評価し、2010年からは一部の研修生の旅費を負担するようになりました。また、インド洋地域では研修の重要性を認識し、独自資金を確保し継続的に研修を実施するようになりました。
2. 南米や中東でも、PSC に関する研修が継続的に行われるようになることを期待しています。しかし、研修の重要性は認識しつつも、資金的な問題等から加盟各国の意見調整に時間を要し、実施に踏み切れないのが現状です。東京 MOU としては、他の地域から要請があれば、これまで培ってきた研修ノウハウを活かし、研修カリキュラムの立案、講義資料の提供、専門家の派遣等について協力したいと考えています。
3. IMO の資金援助により本事業の研修に参加した他地域 MOU の PSC 検査官からは、PSC に関する研修がないため自国地域でも同様の研修を行ってほしいとの多くの要望を受けました。IMO は東京 MOU の研修を高く評価し、他の研修においても連携をして行きたいとしており、東京 MOU とし積極的に協力したいと考えています。
4. 当財団は、1994年に設立以来、東京 MOU 域内の途上国の PSC 能力向上のために研修事業を行ってきており、PSC 研修に関する多くのノウハウを有しています。また、8年間に亘る本事業により更に多くのノウハウを得ることができました。今後、これを活用し、かつ、IMO などの国際機関との連携も考え、東京 MOU 域内及び他地域 MOU での研修の充実に貢献していきたいと考えております。
5. 最後に、8年間に亘り本事業のご支援をいただいた日本財団並びに専門家を派遣していただいた、多くの PSC 当局、寸暇を惜しんでの教材作成、魅力的な講義にするための努力を惜しまなかった講師の方々に心より感謝と敬意を表します。

添付

オマーンにおける研修報告書

現地日程表

日	行動	場所
2017年2月17日(金)～ 2017年2月18日(土)	移動(成田空港～アブダビ～マスカット)	
2017年2月19日(日)	● 開講式 ● PSCに関する座学研修	シティーシーズンズホテル
2017年2月20日(月)～ 2017年2月23日(木)	PSCに関する座学研修	シティーシーズンズホテル
2017年2月24日(金)	市内観光	
2017年2月25日(土)	ソハールへ移動	
2017年2月26日(日)	● 第1回PSC実船訓練(計2隻)	ソハール港
2017年2月27日(月)	● 実船訓練レビュー ● グループ別実習内容プレゼンテーション及び講師講評 ● ケーススタディ等	ラディソンブルーホテル
2017年2月28日(火)	● 第2回PSC実船訓練(計2隻)	ソハール港
2017年3月1日(水)	● 実習内容プレゼンテーション及び講師講評 ● オマーン海事大学見学	ラディソンブルーホテル
2017年3月2日(木)	● 閉講式 移動(ソハール～マスカット～アブダビ～成田空港3日着)	ラディソンブルーホテル

1. 現地派遣者（敬称略）

① 講師

- 1) Ricardo Böke Friederichs, Port State Control Officer, Valparaíso, General Directorate General of the Maritime Territory and Merchant Marine, Chile
- 2) Zhou Chi, Chief PSC Officer Zhejiang Maritime Safety Administration Chief PSC Officer Zhejiang Maritime Safety Administration, China
- 3) 渡辺 元喜、国土交通省 近畿運輸局 海上安全環境部 外国船舶監督官
- 4) Andrew Lawrence Broad, Principal Advisor, Navigation, Environment and International Operations, Maritime New Zealand

② コーディネーター

秋元 文子 公益財団法人東京エムオウユウ事務局業務課長（Projects Officer）

2. 研修主催者

- 中東 PSC 組織（リヤド MOU）事務局
- Ministry of Transport and Communications of Oman
（オマーン運輸通信省）

3. 内容

3.1 開講式

2017年2月19日（日）午前9時より、シティーシーズンズホテルの会議室にて開講式が開催された。司会・進行は、リヤド MOU 事務局長の Mohammed Shaban Al Zadjali 氏が行った。式には、オマーン運輸通信省港湾海事局次官 Said bin Hamdon Al-Harthy 氏及び同局長 Rashid Mohammed AL-Kiyumi 氏が出席した。まず、同省の PSC 課長の Hamdan AL-Mamari 氏が挨拶を述べた。次に、Ricardo Böke 氏（チリ）が講師陣を代表し挨拶を行った。引き続き、東京 MOU 事務局秋元文子が久保田東京 MOU 事務局長（Secretary）の挨拶を代読した。次に、リヤド MOU 事務局長の Mohammed Shaban Al Zadjali 氏が挨拶を行った。

3.2 研修員

研修員は計 12 名であった。研修員の内訳は以下の通りである。

① リヤド MOU 加盟当局からの参加（6 名）（参加費用は自国負担）

オマーン 6 名

他のリヤド MOU 加盟当局からの参加はなかった。バーレーンは研修員を送る予定であったが、3月上旬に予定されている IMO の加盟国監査の準備にスタッフが忙殺されており、参加を取りやめざるを得なくなった。研修開催直後に、オマーン、バーレー

ーン等の中東諸国で順次 IMO の監査が実施されることになっており、これが他国からの参加がゼロになった主な理由である。サウジアラビア及びアラブ首長国連邦も研修員を送ることに前向きな姿勢を示しており、特にアラブ首長国連邦は途中からでも研修員を送りたいとのことだったが叶わなかった。研修時期決定後に IMO 監査の日程が決まり、リヤド MOU 事務局からは研修時期を 2017 年 4 月以降に変更してほしい旨の打診があったが、東京 MOU 事務局の 2016 年度の事業であること及び 2017 年 4 月以降は講師の確保が困難になることから、当初の日程での開催に踏み切らざるを得なかった。

② IMO 招聘による参加（5名）

コンゴ（アブジャ MOU）1名

トルコ（黒海 MOU）1名

スーダン（インド洋 MOU）1名

チュニジア（地中海 MOU）1名

コロンビア(南米 MOU) 1名

セントビンセント及びグレナディーン諸島（カリブ海 MOU）から1名が参加する予定だったが、経由国にて本人のパスポートの残存期間がオマーンが要求する期間に足りないことが発覚し、本国に戻らざるを得なくなり、参加を取り止めた。

③ インド洋 MOU 資金による参加

ケニア1名

全参加者リストは、別紙 1 の通りである。

3.3 座学研修

① 時間割

開講式の後、東京 MOU 及びリヤド MOU 両事務局とオマーン海事当局で事前に合意した時間割に基づき、講義を開始した。なお、時間割は研修開催中に現地での状況等により内容を一部修正し、最終的には別紙 2 とした。

② 各種アレンジ

a) チリの Ricardo Böke 氏は、内外での PSC 研修の講師経験が豊富であること、また、英語が堪能であることから、同氏を今回の研修の講師チームリーダーに任命し、研修の進行や現地とのコーディネート補佐も引き受けてもらった。

b) 講義は英語で行われた。

c) 教材については、東京 MOU 事務局から事前にリヤド MOU 事務局全ての教材を送付、リヤド MOU 事務局は USB にコピーし、研修生全員に配布した。

d) 韓国船級協会から寄贈された最新の KR CON（電子海事条約集）を、東京 MOU 事務局から研修生全員に配布した。

e) 座学中、机は教室型に配置された。

③ 研修内容

1日目 (2月19日 日曜日)

3.1 に記載した開講関連の行事が終わった後、準備講座として、以下のプレゼンテーションが行われた。

1) 秋元文子による、東京 MOU の活動紹介。

2) Hamdan AL-Mamari 氏による、オマーンでの PSC 活動報告

リヤド MOU 事務局によるリヤド MOU の最新活動報告が予定されていたが、同事務局の内部事情により、実施されなかった。

研修本体は、渡辺 元喜氏 (日本) の以下の講義で開始された。

- **Ships Certificates and Documentation (PSC でチェックすべき証書類)**

渡辺元喜氏が、PSC でチェックすべき証書類の例を提示しながら、船種別の証書の有効期限など、PSC でチェックすべき点をまとめたプレゼンテーションを行った。研修員は丁寧な説明に興味深く耳を傾けていた。

引き続き、渡辺氏が以下の講義を行った。

- **SOLAS (海上人命安全条約) 第 I 章 (一般規定)**

昼食を挟み、Andrew Broad 氏 (ニュージーランド) が以下の講義を行った。

- **SOLAS 条約 第 II-1 章 (構造 - 区画、復原性及び機関・電気)**

引き続き Ricardo Böke 氏が以下の講義を行った。

- **COLREG (海上衝突予防条約)**

小休憩を挟み、Zhou Chi 氏 (中国) が以下の講義を行った。

- **Maritime Labour Convention, 2006 (2006 年海上労働条約)**

オマーンは同条約をまだ批准していないが、近い将来批准の予定であるため、研修員は熱心に参加していた。

2日目 (2月20日 月曜日)

(復習)

リーダーの Ricardo Böke 氏が前日の各講義の概要を口頭で説明した後、質疑応答が行われた。残りの時間で、研修初日に時間の都合でできなかった研修員の自己紹介が行われた。

Andrew Broad 氏が、以下の講義を行った。

- **MARPOL (海上汚染防止条約) 付属書 I (油汚染防止)**

プレゼンテーションは 2 部に分かれ、第 1 部は条約の概要、小休憩を挟み、第 2 部は油記録簿 (Oil Record Book) に特化したものだった。

引き続き Andrew Broad 氏が以下の講義を行った。

- **SOLAS 条約 第 II-1 章 (構造 - 構造、区画・復原性、機関及び電気設備)**

小休憩を挟み、Ricardo Böke 氏が、以下の講義を行った。

- **SOLAS 条約 第 II-2 章 (構造 - 防火並びに火災探知及び消火)**

昨年バーレーンでの専門家派遣で日本の講師が作成した資料を基に作成された講義資料を使用しての講義は、PSC の手順に沿ってチェックする箇所を説明しながら、典型的な欠陥の写真を多く紹介するし、内容の濃いものであった。

昼食後、Zhou Chi 氏による以下の講義が行われた。

- SOLAS 条約第 III 章 (救命設備)

条約規定内容の説明後、救命艇離脱のメカニズムと SOLAS に基づいた救命艇の船員向け訓練の様子のビデオを上映したのは好評だった。

小休憩の後、Ricardo Böke 氏が以下の条約の概要を説明した。

- Ballast Water Management (バラスト水管理条約)

2017年9月88日発効が確定している同条約の概要と PSC におけるチェック・ポイントの説明がなされた。

続いて、IMO からの来賓 Hakan Demirlioglu 氏が以下のプレゼンテーションを行った。

- GISIS (*Global Integrated Shipping Information System*) and the data exchange mechanism

IMO が管理する上記データベース、特に各地域 MOU の PSC データを集めたデータベースについて、説明とデモンストレーションを行った。

3日目 (2月21日 火曜日)

(復習)

リーダーの Ricardo Böke 氏が前日の各講義の重要点を振り返った後、質疑応答が行われた。

次に、Zhou Chi 氏が以下の講義を行った。

- SOLAS 条約第 IV 章(無線通信)

Zhou 氏の上記講義が予定より早く終了したため、Zhou 氏が、現在中国が中心となって MARPOL 条約附属書 VI (大気汚染防止) のガイドラインの見直し (2013年に発効したエネルギー効率に関する規定の取入れ) を作成している関係上、残りの時間を当該新要件の概要を説明する時間に当てた。

引き続き Andrew Broad 氏が途中で休憩を挟み、以下の講義を行った。

- MARPOL 条約附属書 II (ばら積み有害液体物質による汚染防止)

昨年バーレーンでの専門家派遣事業で日本の講師が作成した資料を基に、4部構成 (ケミカルタンカーの種類、IBC コード (危険化学薬品の撒積運送のための船舶構造および設備に関する国際規則)、MARPOL 条約附属書 II 全般、PSC 関連事項) で講義を行った。

引き続き Andrew Broad 氏が以下の講義を行った。

- ECDIS (電子海図情報表示装置)

- SOLAS 条約第 V 章 (航行の安全)

昼食後、Zhou Chi 氏 (が以下の講義を行った。

- SOLAS 条約 VI 章（貨物の積載）、XII 章（ばら積み船の追加要件）、XI-1 章 第 2 規則（検査強化）

PSC でチェックする事項を、写真等を用いながら簡潔に説明する講義が行われた。また、関連項目に関するビデオも上映した。

小休憩を途中に挟み、渡辺元喜氏が以下の講義を行った。

- ILLC (満載喫水線国際条約)

渡辺氏は、条約の改正経緯、規則の要点について図を交えての説明、PSC においてチェックする箇所典型的な欠陥の写真を見せながら、PSC 検査官が見落としがちな個所を丁寧に説明した。

4 日目 (2 月 22 日 水曜日)

(復習)

リーダーの Ricardo Böke 氏が前日の各講義の重要点をまとめて発表。その後、活発な質疑応答が行われた。

引き続き、Zhou Chi 氏が以下の講義を行った。

- SOLAS 条約 IX 章（安全運航管理）及び ISM コード（安全管理規則）

小休憩の後、Andrew Broad 氏が以下の講義を行った。

- IMDG コード（国際海上危険物規則） SOLASVII 章（危険物の運送）及び MARPOL 条約附属書 III（容器収納有害物質による汚染防止）

次に、Ricardo Böke 氏が以下の講義を行った。

- SOLAS X1-2 章（海上保安強化）及び ISPS コード（船舶及び港湾の保安規則）

昼食を挟み、引き続き Ricardo Böke 氏が以下の関連条約の PSC 講義を行った。

- STCW 条約（船員訓練当直条約）

小休憩の後、渡辺元喜氏が以下の講義を行った。

- Recognized Organization Responsibility（政府代行機関の責任）

この講義は、PSC 検査官の必須の知識として、8 年間の域外への専門家派遣事業において初めて独立した科目として行った。これまでも各講義で断片的に取り入れていたが、研修員や講師の声を受け、独立した講義として提供した。研修員からは好評であった。

5 日目 (2 月 23 日 木曜日)

(復習)

リーダーの Ricardo Böke 氏が前日の各講義の重要点をまとめた後、質疑応答が行われた。

次に、渡辺元喜氏が以下の講義を行った。

- MARPOL 条約附属書 IV（汚水による汚染防止）、同附属書 V（廃物による汚染防止）、同附属書 VI（大気汚染防止）

小休憩の後、秋元文子（東京 MOU 事務局）が次の講義を行った。

● PSC 検査官の責任（PSCO Responsibility）

休憩後、Ricardo Böke 氏が以下のプレゼンテーションと演習を行った。

● PSC Deficiency Wording（欠陥の記入方法）

昨年度実施したバーレーンでの専門家派遣事業に引き続き行ったが、チリ Böke 氏の進め方・展開方法が秀逸で、研修員の積極的な参加が見られた。小グループに分かれて行った実際の欠陥写真を用いた演習も好評だった。

昼食後、渡辺 元喜氏が以下の講義を行った。

● Virtual PSC（模擬 PSC）

実船訓練の前の講義として、2016 年の日本で実施した東京 MOU 一般研修（General Training Course）で用いた教材を利用し、実際の PSC の流れを確認した。渡辺氏は研修員に積極的に質問を投げかけ、相互間で活発な対話が見られた。

④ 座学研修中の状況

a) 研修員

i オマーンからの研修員（6名）

国内の PSC 専任職員 4 名、近い将来 PSC に携わる予定の職員（旗国検査官）2 名が参加していたが、全員非常に熱心に参加していた。PSC 専任職員の内 3 名は、年インド洋 MOU 資金によりオマーンで 2015 年に開催された PSC 研修にも参加していたが、受講態度、講師に投げかける質問の内容等から、2015 年当時と比べ彼らが知識を深め、経験を積んで来ていることが観察された。

ii IMO 招聘の研修員及びインド洋 MOU 資金により参加の研修員（6名）

全員が熱心に参加していた。

b) 教材

講義間で講義内容が極力重複しないよう調整した。また、KR CON の無償配布は好評を博した。オマーンでの研修は 2015 年に引き続き 2 度目だったため、リヤド MOU 事務局の要請を受け、教材がより実務的になるよう事前に調整した。前回も参加した研修生によれば、講師が前回とは全て異なり、前回とは違うより実務的な講義もあり、違う視点で学べてよかったとのことだった。

c) 講師ミーティング

講師陣、両事務局及びバーレーン当局との間では頻繁にミーティングをし、各研修員の経験やレベルについての情報交換や、講義の手法、時間の配分等について話し合った。渡辺講師の先導により、各参加者に PSC の経験、乗船経歴などアンケートを行い、翌週の実地研修のグループ分けやグループリーダーの決定を早い時期に行うことができた。

3.4 実地研修

① 実習地ソハールへ移動

2月25日(土)午後、リヤドMOU事務局の手配により、講師及び研修員全員が実船訓練地であるソハールに移動した。

② 実船訓練実施要領

2月26日(日)に二船にて実施予定の実船訓練の実施要領について、研修員、講師(コーディネーターを含む)及びリヤドMOU事務局で打ち合わせをし、以下の事項を確認した。

- a) 講師やIMO等招聘研修員は、オマーン国内でPSCを行う権限がないため、オマーンのPSC検査官がPSCを執行する。
- b) PSC終了後は担当講師を交えグループ毎にレビューを行う。また実習内容のプレゼンテーションを作成する。
- c) 実習の翌日、グループ毎にPSCの手順に沿って発表を行い、討論を促す。講師は、観察事項や実習についてそれぞれ講評を行う。

6日目 実船訓練及びレビュー(2月26日 日曜日)

a) 第1回実船訓練

予定通り2隻のバルクキャリアで実習を行った。参加者と講師陣はそれぞれ2グループに分かれた。研修員グループは更に二手に分かれ、担当講師陣も各々の経験や得意分野により機関部担当と甲板部担当の二手に分かれ、前者は機関部でチェックすべき箇所を、後者は甲板部でチェックすべき箇所を2グループそれぞれに説明した。船側には同じ説明を2回してもらうという負担をかけてしまったが、トレーニングという目的に叶う丁寧かつ効率的な訓練が出来た。東京MOU事務局職員(コーディネーター)が実習に参加した船はドバイでPSCを受けたばかりで、オマーンではPSC対象船舶から外れていたが、船側の協力を得て、研修場所として提供してもらうこととした。オマーンPSC検査官がPSCを先導するのではなく、講師が説明するという形をとった。船長や機関長が非常に協力的だったのはありがたかった。コーディネーターが訪れた船はメンテナンスがよく、大きな問題は指摘されなかった。一方、渡辺氏とZhou Chi氏が参加したグループは、前回のPSCから6か月以上が経過しており、またメンテナンスもよくなかったことから、オマーンPSC検査官が実際のPSCを行った。実習船の詳細は別紙3の通りである。

b) 実習のレビュー

予想以上にPSCに時間を要したため、研修会場のホテルに戻ったのが両グループとも16時以降だった。このため、下船後グループ毎に翌日のプレゼンテーション資料も作成する予定だったが、翌日午前中に延期した。

7日目 第1回実船訓練発表及びケーススタディ等(2月27日 月曜日)

a) 実船訓練成果発表

各グループが、前日の実習のプレゼンテーション資料を作成した。作成後、各グループ代表者が撮影した写真を用いながら、前日に行った PSC について、チェックした箇所、指摘した欠陥の記述及び処置コード等を発表した。講師の指示で、航行停止処分に至らなかった軽微な欠陥についても、演習としてプレゼンテーション資料には根拠条文を記すこととした。発表後、Ricardo Böke 氏は表現が曖昧欠陥に関する記述を指摘し、どのように記述すべきについて研修員全員の議論を誘導した。一方 Andrew Broad 氏は、発表に含まれていなかったが PSC でチェックが必須の機器類（液体燃料漏洩警報システム等）の写真を呈示しながら、根拠条文を問いかける等、講師、研修員が討議し、非常に活発な議論が展開された。

b) 講師による実船訓練第 1 回目の講評

オマーンの PSC 検査官が先導し、実際の PSC を行ったグループとして参加した講師（甲板部担当の渡辺氏と機関部担当の Zhou 氏）が、それぞれ参加した実習の講評を行った。両講師もパワーポイントを用い、良かった点を述べ、時間の制約上説明を省いた箇所を説明した。両講師とも、質の高い PSC であったと述べた。渡辺氏は搭載されていた救命艇のメーカーや型式等を取り上げ、丁寧に説明していた。渡辺氏のスライドは紙面の関係で割愛するが、Zhou 氏スライドの一部を別紙 4 に掲載した。両講師の講評後、リーダーの Böke 氏が総評を述べた。

c) Emergency Generator (非常用発電機)

引き続き Andrew Broad 氏が、非常用発電機における PSC のチェック・ポイントとその根拠条文に関する短いプレゼンテーションを行った。

d) ケーススタディ

Zhou Chi 氏主導によるばら積み船、渡辺氏主導による MARPOL 条約附属書 VI（大気汚染防止）に関するケーススタディ（2 題）が行われた。活発な意見交換が展開された。

e) ロールプレイ

Ricardo Böke 氏が船長、Andrew Broad 氏が機関長、研修員 1 名が PSC 検査官に扮し、PSC 検査官と船長及び機関長との問答（乗船後 PSC の目的を説明し、証書類のチェックを行うまでの間）のロールプレイが 2 回行われた。各ロールプレイの後、両講師が PSC 検査官の態度について講評した。その後、Ricardo Böke 氏が船長、Zhou Chi 氏が機関長、Andrew Broad 氏が PSC 検査官に扮し、模範演技が示された。講師陣のユーモアを交えたロールプレイは好評を博した。

8 日目 実船訓練及びレビュー（2月28日 火曜日）

a) 第 2 回実船訓練

当日朝、オマーン当局より、バルクキャリア、コンテナ船及びタンカーの計 3 隻の実習対象船があるとの情報が伝達された。講師陣がタンカーは実習には不向きと判断し、バルクキャリアとコンテナ船で PSC 実船訓練を行うこととした。研修員と講師

グループの構成は前回と同じだったが、研修員グループと講師グループの組合せを替えた。この結果、研修員は4人の講師からそれぞれ助言を得ることが出来た。2グループとも、実際にPSCを行った。2船の詳細は別紙3のとおりである。東京MOU事務局職員（コーディネーター）が参加した船（バルクキャリア）は全般的にメインテナンスが良く、オマーンのPSC検査官は記録に残すほどの欠陥はないと判断し、船長への口頭での説明にとどめた。

b) 実習のレビュー

両グループともPSCに約5時間要したため、昼食が終えたのが16時だった。そのため、レビューとプレゼンテーション資料作成は翌日午前中に延期した。

9日目 第2回実船訓練発表及びオマーン国際海事大学訪問（3月1日 水曜日）

a) 実船訓練成果発表

グループ毎に前日の実習のプレゼンテーション資料を90分程度で作成後、最初のグループが、前日に行ったPSCについて、撮影した写真を用いながら、チェックした箇所、指摘した欠陥の記述及び処置コード等を発表した。前回同様、研修員と講師間で議論や質問など、活発なコミュニケーションが展開された。

b) オマーン国際海事大学訪問

当日朝、急遽ソハールにあるオマーン国際海事大学見学の機会が与えられることになり、研修員及び講師等全員が同大学を訪問し、大学職員の案内でシミュレーター等の施設を見学した。

c) 実船訓練成果発表（続き）

オマーン国際海事大学訪問後、もう一つのグループの発表が行われた。ある欠陥の記述について講師陣からわかりにくいとの指摘があり、それを教材に、講師リーダーのBöke氏が議論を誘導した。

d) 講師による実船訓練第2回目の講評

実船訓練のオブザーバーを代表して、Böke氏が講評を述べた。Böke氏は、自信がない項目については、必ず規則をチェックすることを強調した。2回目の実習は、トレーニングの観点から非常に有意義であったこと、今後もこのようなPSC訓練の機会があれば、実際にPSCを執行する際の自信につながる等のコメントを述べた。実船訓練の講評が終了後、研修員には講師に質問できる最後の機会であったため、PSC全般に関する質問が飛び交い、講師が丁寧に回答していた。

e) 講師による研修全体の講評

4人の講師がそれぞれ2週間の研修の講評を述べた。どの講師も研修員の熱意を評価し、彼ら自身も研修員や他の講師から学ぶことができた貴重な機会だったと述べた。また、リヤドMOU事務局長AL Zhajli氏は、この研修を企画し実現した東京MOUと資金支援をしてくれた日本財団に謝意を述べた。これを以って、研修日程がすべて終了した。

③ 実船訓練の状況と課題

研修員と講師を2グループに分け、研修員グループと講師グループとを入れ替えることにより、講師4人全員の指導を受けられるよう工夫したのはよかった。この一方で、船側には、大人数での訪船と、船員に2度同じ説明を強いることとなり、負担になったものと推測する。幸い今回訪れた船舶の船長・機関長等は協力的であったため大きな混乱は生じなかったが、実船実習を船側への負担を極力少なくし効果的に行うかが今後の課題である。なお、今回のやり方は、船側の協力のおかげで、各講師が実際のPSCの中で非常に丁寧に説明をすることができ、研修員にはわかりやすいと好評であった。

また、欠陥措置コード一覧など、現場で検査報告書を作成するのに必要な手引きを研修員に携行させることが必要と感じた。

3.5 閉講関連行事

10日目 閉講式（3月2日 木曜日）

閉講式と修了証書授与式が開催された。まず、オマーン当局を代表して、運輸通信省港湾海事局次官長のRashid Mohammed AL-Kiyumi氏から、講師、東京MOU及びリヤドMOU事務局の協力及び日本財団の資金援助に感謝の言葉が述べられた。次に講師を代表してRicardo Böke氏が挨拶を行った。続いて、東京MOU事務局秋元とリヤドMOU事務局長Mohammed Shaban AL Zhadjali氏から挨拶が行った。

いずれの挨拶でも、日本財団の資金援助に対する感謝の意が述べられた。

次に、Rashid Mohammed AL-Kiyumi氏から、各研修員に修了証書が、各講師に感謝状が、手交された。

4. 研修全体を振り返って

① オマーンにおけるPSC

オマーンのPSCは現在過渡期である。2015年までは、今回の実習地でもあるソハール担当のPSC検査官は、首都マスカットから約240キロ離れたソハールに車で移動し、現地のホテルに1週間程度滞在し、集中的にPSCを行っていたが、2016年以降は、日帰りでソハール・マスカットを往復しPSCを行い、翌日は休むというパターンになっているとのこと。これにより、2016年の検査件数は、2015年に比べにおよそ半減した。しかし、近い将来ソハールに事務所を開設すべく、現在着々と準備中だそうである。事務所が開設されれば、PSC検査官はソハールに常駐し、効率よくPSCを行うことができるようになる。現在オマーン全国でPSC検査官は10名程度だが、今回の研修には将来PSC検査官になる予定の職員が3名参加していた。PSCの発展に力を注いでいる現れであろう。また、オマーンのPSC検査官は年齢が若く、現状では経験が不足しているのは否めないが、意欲が高く今回の研修においても得た知識や経験を確実に自分たちの糧としている様子がうかがわれ、リヤドMOU事務局所在国として中東地域のPSC

をリードしていく気概と意欲を感じた。

② 他地域からの研修員

知識や経験のばらつきはあったものの、全員が熱心に参加していた。自国や地域 MOU には PSC に特化した研修がなく、この研修から学ぼうという意欲が感じられた。

③ 講師陣の指摘事項

講師陣には別途、講師の立場から今回の研修の評価を書面にて提出してもらった。以下に、それらの講評や示唆をまとめたものを示す。

a) 座学

どの講師も、研修員の受講態度はよく、熱心であったと授業のしやすい環境であったと述べている。

b) 実船訓練

2 回行ったが、講師陣は自身も研修員も満足出来た指導が出来る環境だったと述べている。欠陥加諸島の写真を適宜撮るなど、研修員の PSC 検査官としての態度もよかった。一方、限られた時間を効率的に使用していないとの声もあった。

c) ケーススタディ

何れのケーススタディも研修員には好評であった。ある講師は、根拠条文を探すのに不慣れな様子であったと述べている。

d) 全般

次のような評価が寄せられた。

- 研修員全員が熱心で、知識と経験の吸収に意欲的で、やり甲斐があった。
- 研修員の期待に沿った内容を提供できた。
- 次なるステップの研修（東京 MOU の専門家が、実習の集中指導を行う等）があると効果的。
- 他の PSC 組織との意見交換は講師にとっても有益だった。
- 東京 MOU 事務局の裏方の働きに感謝する。

3. 研修全体に対する参加者の講評

別紙 5 に、各研修員の研修に対する講評を転記した。全体的に非常に有益だったとの声がほとんどだった。内容に関しては、実船訓練やケーススタディの回数を多く望む声や、1 回の実習の時間をもっと長くしてほしいとの声もあった。船側の協力を得て模擬 PSC を行ったほうがより効果的であることを実感したとの声もあった。講師に対する評価も高かった。

4. 今後の展望

中東 PSC 地域での第 2 回目の「出前研修」は、ほぼ予定どおり終了した。参加した PSC 検査官が、この研修で得た知識及び経験を活かし、彼らの国・地域において、検査の質の向上を図ることを願っている。多くの研修員は、非常に有意義で貴重なトレーニングだったと

評価していた。

東京 MOU が培ってきた研修のノウハウが、発展途上にある他地域 MOU 等の手助けになり、評価されていることを改めて実感した。今回の研修が成功裡に終わったのは、講師としてご協力いただいたチリの Ricardo Böke 氏、中国の Zhou Chi 氏、日本の渡辺 元喜氏及びニュージーランドの Andrew Broad 氏のご尽力の賜にほかならない。

特に Ricardo Böke 氏には講師陣のリーダーを務めていただき、講師陣をまとめ、研修員を適切に導き、多岐にわたりご貢献いただいた。

各講師からは、やり甲斐があったとの感想をいただいた。この場を借りて各講師に深く感謝を申し上げたい。同時に、今回の研修の会場手配から空港送迎まで、お世話いただいたリヤド MOU 事務局と、今回の研修のホストであったオマーンの Ministry of Transport and Communications の全面的な協力があったこそ、円滑に実現ができた。改めてお礼を申し上げたい。

また、日本財団のご支援に対して、改めて深く感謝の意を表したい。8年間に亘りご支援をいただいた他地域への専門家派遣事業の最後を飾るのにふさわしい内容と、研修員、講師双方の満足度が高い研修であった。

研修会場に飾られたバナー



開講式（2017年2月19日）風景



オマーン運輸通信省港湾海事局次官挨拶



リヤドMOU事務局長挨拶



講師代表挨拶



講師陣と東京エムオウユウ事務局

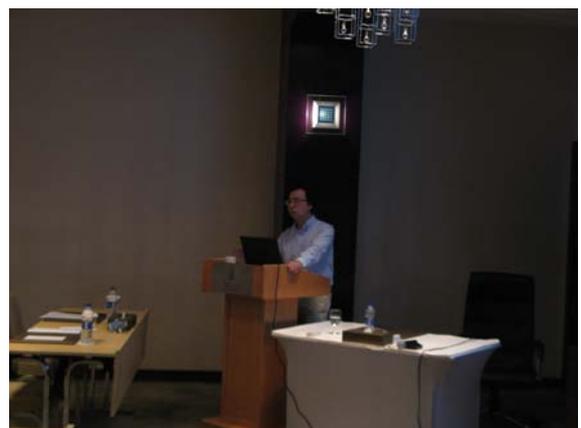
講義風景



講師 Ricardo Böke 氏 (チリ)



講師 渡辺 元喜 氏 (日本)



講師 Zhou Chi 氏 (中国)



講師 Andrew Broad 氏 (ニュージーランド)



受講者

実船訓練





実船訓練のレビュー



実船訓練の講師の講評

閉講式（2017年3月2日）



修了証書授与



集合写真

別紙 1

参加者リスト

1. オマーンからの参加者 (6名)

1	Hamdan Rashid Hamdan AL-Mamari
2	Mohammed Salim Mohammed AL-Mukhaini
3	Majid Abdullah Ali AL-Maqbali
4	Waheed Ali Abdullah AL-Hindasi
5	Muadh Khalfan Ali AL-Nadabi
6	Mohammed Abdullah Masoud AL-Quri

2. 国際海事機関招へい者 (5名)

7	Medard Ngobo	Abuja MOU	コンゴ
8	Yakup Egilmez	Black Sea MOU	トルコ
9	Omer Satti Salih	Indian Ocean MOU	スーダン
10	Kheireddine Sghaier	Mediterranean MOU	チュニジア
11	Jimmy Yusti Robles	Viña del Mar Agreement	コロンビア

3. インド洋 MOU 招へい者 (1名)

12	Tayari Shsaban Omar	ケニア
----	---------------------	-----

別紙 2

Time Table of Expert Mission in Oman

Date		Activity	Instructor
18-Feb-2017/Sat		Arrival of experts and participants in Muscat	
19-Feb-17 Sun	08:30 - 09:00	Opening Ceremony and Introduction (Remarks by Oman, TMOU Secretariat and leading instructor)	
	09:00 - 10:10	Coffee Break	
	10:10 - 10:30	Introduction of Tokyo MOU	Tokyo MOU
	10:30 - 10:40	PSC Activities of Oman	Oman
	10:40 - 12:00	Ship certificates and documentation	Japan
	12:00 - 13:00	PSC Guidelines for SOLAS I	Japan
	13:00 - 14:00	Lunch	
	14:00 - 15:00	PSC Guidelines for SOLAS II-1	New Zealand
	15:00 - 15:30	PSC Guidelines for COLREG	Chile
	15:30 - 16:00	Coffee Break	
16:00 - 17:00	PSC Guidelines for MLC, 2006	China	
20-Feb-17 Mon	08:30 - 09:00	RECAP self-introduction of participants	Leading trainer
	09:00 - 10:00	PSC Guidelines for MARPOL I	New Zealand
	10:00 - 10:30	Coffee Break	
	10:30 - 11:00	Continued: PSC Guidelines for MARPOL I	New Zealand
	11:00 - 13:00	PSC Guidelines for SOLAS II-2	Chile
	13:00 - 14:00	Lunch	
	14:00 - 15:30	PSC Guidelines for SOLAS III	China
	15:30 - 16:00	Coffee Break	
	16:00 - 16:40	Overview of Ballast Water Management	Chile
16:40 - 17:10	GISIS	IMO	
21-Feb-17 Tue	08:30 - 09:00	RECAP	Leading trainer
	09:00 - 10:00	PSC Guidelines for SOLAS IV	China
	10:00 - 10:30	PSC Guidelines for MARPOL II	New Zealand
	10:30 - 11:00	Coffee Break	
	11:00 - 11:30	Continued: PSC Guidelines for MARPOL II	New Zealand
	11:30 - 12:45	PSC Guidelines for SOLAS V including ECDIS	New Zealand
	12:45 - 14:00	Lunch	
	14:00 - 15:00	PSC Guidelines for SOLAS VI, XI-1 (Reg.2) and XII	China
	15:00 - 15:35	PSC Guideline for Load Lines	Japan
	15:35 - 16:00	Coffee Break	
16:00 - 17:00	Continued: PSC Guideline for Load Lines	Japan	
22-Feb-17 Wed	08:30 - 09:00	RECAP	Leading trainer
	09:00 - 10:00	PSC Guidelines for SOLAS IX & ISM Code	China
	10:00 - 10:30	Coffee break	
	10:30 - 11:45	PSC Guidelines for MARPOL III, SOLAS VII & IMDG Code	New Zealand
	11:45 - 13:00	PSC Guidelines for SOLAS XI-1 (Reg.3 & 5), XI-2 & ISPS Code	Chile
	13:00 - 14:00	Lunch	
	14:00 - 15:40	PSC Guidelines for STCW	Chile
	15:40 - 16:00	Coffee Break	
	16:00 - 16:30	Guidelines for RO Responsibility	Japan

Date		Activity	Instructor
23-Feb-17 Thu	08:30 - 09:00	RECAP	Leading trainer
	09:00 - 10:30	PSC Guidelines MARPOL IV, V & VI	Japan
	10:30 -11:00	Coffee Break	
	11.00 - 11.10	Continued: PSC Guidelines MARPOLVI	Japan
	11:10 - 11:25	PSCO Responsibility (Qualifications of PSCO & Code of Good Practice)	TMOU
	11:25 - 13:00	Deficiency Wording & Writing and Writing Exercise	Chile
	13:00 - 14:00	Lunch	
	14:00 - 15:30	Virtual PSC	Japan
	15:30 - 16:00	Coffee Break	
	15:30 - 16:00	Preparatory work for <u>On-board Inspection 1</u>	
24-Feb-17 Fri		City tour	
25-Feb-17 Sat		Move to Sohar Meeting for 1 st PSC onboard training	
26-Feb-17 Sun	09:00 -14:30	<u>On-board Inspection 1</u> by group	
	15:00 - 16:00	Lunch	
27-Feb-17 Mon	08:30 -10:45	Review of <u>Inspection 1</u> , discussion and preparation for presentations by group (with a break in between)	
	10:45 -12:50	Presentations of the outcomes of <u>Inspection 1</u> by Group & Observations by instructors	
	12:50 - 14:00	Lunch	
	14:00 - 14:30	Case study	China
	14:30 - 15:00	Exercise (role play)	
	15:00 -15:30	Case study	Japan
	15:30 --15:50	Coffee break	
15:50 -16:15	Preparatory work for <u>On-board Inspection 2</u>		
28-Feb-17 Tue	08:30 -14:30	<u>On-board Inspection 2</u> by group	
	15:00 - 16:00	Lunch	
1-Mar-17 Wed	08:30 - 10:15	Review of <u>Inspection 2</u> , discussion and preparation for presentations by group	
	10:15 -10:40	Presentations of the outcomes of <u>Inspection 2</u> by Group 1 & Observations by instructors	
	10:40 - 13:00	Visit to Oman International Maritime College	
	13:00 - 14:00	Lunch	
	14:00 - 15:55	Presentations of the outcomes of <u>Inspection 2</u> by Group 1 & Observations by instructors	
	15:55- 16:30	RECAP of the course overall	Leading trainer
2-Mar-17 Thu	10:30 -11:30	Closing Ceremony Remarks by Oman, the leading trainer, TMOU and Riyadh MOU Secretariats Awarding certificates to the participants and the trainers	
	12:00 - 13:00	Lunch	

別紙 3

実船訓練船リスト

実施日：2017年2月26日（日）

グループ 1（同行者: Ricardo Böke 氏(チリ)、Andrew Broad 氏（ニュージーランド）、Ahmed Mahmood Al Mandhari 氏（リヤド MOU 事務局）及び秋元文子(東京エムオウユウ事務局)）

Name	IMO No.	Type	GRT	Flag	Keel Laid	Class	Detention
PARIS TRADER	9594470	Multi-purpose dray cargo	22,863	Antigua & Barbuda	2008	DNV-GL	No

グループ 2（同行者: 渡辺元喜氏（日本）、Zhou Chi 氏（中国））

Name	IMO No.	Type	GRT	Flag	Keel Laid	Class	Detention
SAI SUNSHINE	9161194	General cargo	13,066	India	1999	Bureau Veritas/IR	No

実施日：2017年2月28日（火）

グループ 1（同行者: 渡辺元喜氏（日本）、Zhou Chi 氏（中国） Ahmed Mahmood Al Mandhari 氏（リヤド MOU 事務局）及び秋元文子(東京エムオウユウ事務局)）

Name	IMO No.	Type	GRT	Flag	Keel Laid	Class	Detention
RIGEL	9334894	Ore carrier	150,386	Japan	2006	NK	No

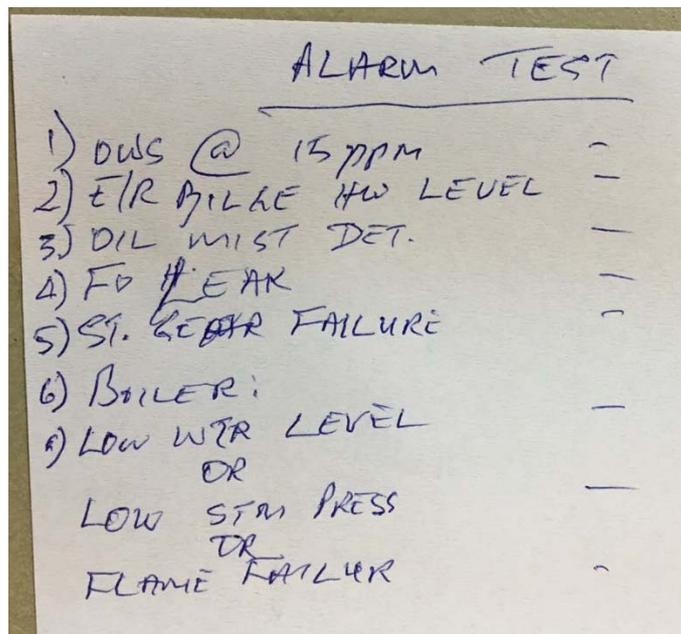
グループ 2（同行者: Ricardo Böke 氏(チリ)、Andrew Broad 氏（ニュージーランド）、Mohammed Shaban Al Zhajali 氏（リヤド MOU 事務局））

Name	IMO No.	Type	GRT	Flag	Keel Laid	Class	Detention
HEBE	9522934	Container ship	35,824	Liberia	2007	DNV-GL	No

Inspection comments

Good practice:

- Small note booklet inside the pocket, recording all info (cert. important info/check points/ deficiencies/ doubts);
- Entire cert./documents/records, etc. list for the Capt. to provide;
- Alarm test requirement list ---- efficient for you and easy for the crews;
- Always taking photos, for memorizing the deficiencies/check points, sometimes recording videos;
- Self-test ok? Enough? Cheatings possibility?



Suggestions:

- Voice recording device, if possible and if it's allowed by the Capt. - be ready for any possible troubles;
- Collect photos/videos for each inspection and put them into a folder named by the inspection date/ship's name----good for

inter-study/case study/solving dispute issues;

- Always bring KR CON/alternatives on board----you are not alone!
- Think about upfront be aware of the rectification possibilities - for normal deficiencies, better tell the Capt. clearly your requirements to close them; for those complex, communicate first, make all related parties express their opinions, and act as a PSCO!

* * *

別紙 5
研修生の研修に対する講評

1. 座学について

Oman 1

Overall very good and experienced lecturers. Even if answers to some questions were not available, they searched and found answers.

Oman 2

It was good, thanks.

Oman 3

It's good if more case studies.

Oman 4

All lecturers were very good.

Oman 5

It was very good and interesting subjects.

Oman 6

They are very excellent.

Other MOU 1

Good group of experts, and I was satisfied.

Other MOU 2

They were excellent, willing to transfer knowledge.

Other MOU 3

None. All good.

Other MOU 4

The lecturers did a good job of imparting all the knowledge they had to the training course participants.

2.1 実船訓練及び訓練後のレビュー

Oman 1

Onboard training, you are on a real time situation which cannot be felt by theoretical, and the lecturers were all helpful and very well on transferring knowledge.

Oman 2

Nothing to add. It was very good.

Oman 3

My observations are positive. I have learned a lot from these teaching.

Oman 4

The onboard training was excellent and as if a proper port State control inspection.

Oman 5

I highly appreciated the tests performed in the engine room.

Other MOU1

It is necessary to more time on board.

Other MOU 2

Almost all ships have refrigeration and air conditioning ships on board which use refrigerants. These systems were not discussed during the training sessions. What conventions and regulations, if any, govern these systems?

2.2 事例研究 (ケーススタディ)

Oman 1

Good to give more case studies.

Oman 2

It can be started before visiting the vessels so anything to learn from it and try to conduct it onboard.

Oman 3

Instructors were up to our expectations and the equipment was excellent.

Other MOU 1

The simulations carried out among the lecturers and trainees was useful and raised the participants confident.

Other MOU 2

None. All good.

Other MOU 3

- A) The case studies were helpful to all the training participants.
- B) All the case studies were quite informative and useful.
- C) All the case studies selected and presented by the training lecturers were ideal and to the point.

3. 研修全般

Oman 1

The course overall was very useful – we thank the one who funded it and made it happen. We hope such a course and expert missions continue because there is always something new to learn and knowledge to gain. Thank you.

Oman 2

No comments. The course was very good. Thank you.

Oman 3

The onboard inspection training gave the participants more knowledge, so if it can more than two times, it will be much helpful.

Oman 4

The course was useful for me and I got a lot of information.

Oman 5

It was very good and interesting and training onboard. I think it's better to do more training onboard.

Oman 6

I suggest to increase the number of ships which inspected during the course from two to three or more.

Other MOU 1

Had a lot of time to cover several number of subjects, and more encounters and exchanges of experiences.

Other MOU 2

Moreover, the content of the course could be further enhanced by including more ISM Code topics.

Other MOU 3

Actually no problems encountered, everything goes smoothly.

Other MOU 4

I would suggest to add this topic:

SOLAS regulations that deal with the safe return to port of passenger ships. Thank you.

Other MOU 5

Excellent training and good instructors.

Other MOU 6

All the instructors were well organized and prepared for the lectures they presented. There were no problems experienced during the entire period of the training sessions. Some lecturers speak with low voice – cannot be heard clearly around lecturer room. Suggestion: training course participants should, where possible, be accommodated at the training course venue.
